

# 子宮頸がんの原因

## ワクチン効果解説

### 韮崎で講習会

県臨床衛生検査技師会は6日、東京エレクトロン韮崎文化ホールで学術講習会を開き、山梨大医学部産婦人科学教室講師の奈良政敏さんが「子宮頸がんとHPV感染」と題して講演した＝写真。



奈良さんは子宮頸がんの原因となるヒト・パピローマ・ウイルス（HPV）感染について「日本で使用可能なワクチンを12歳で接種すれば、HPV16型と18型の感染をほぼ100%防ぐことができ、子宮頸がんの発症を約70%減少させることができ」と説明。「30歳代が最もがんに進展しやすい。20歳代後半から30歳代前半にがん検診を受けるべきだ」と訴えた。

講習会には県内の病院に勤める臨床検査技師ら約40人が参加。意見交換会も行った。